

令和5年度第1回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和5年7月4日(火) 午前10時から11時30分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--|
| 委員 | 晝馬るみ委員、近藤潤子委員、中村朋子委員、
松本孝久委員、松井里華委員、飛田ひさ子委員、
村上剛委員、澤根緑委員、山本巖委員、李受眞委員 |
| 事務局 | 宮崎教育長
嶋野文化振興担当部長、加藤生涯学習担当課長、
中村生涯学習推進グループ長、
袴田指導主事、名波主任、石塚主任 |
| 欠席委員 | なし |
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容
- 副委員長の選出
 - 第37期浜松市社会教育委員の活動
 - 本市の主要事業における実績及び計画
 - ①2022年度生涯学習事業報告・2023年度学習事業計画
 - ②2022年度各区事業報告・2023年度各区事業計画
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田陽太
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 委員委嘱
白岩伸也委員の辞任に伴い、後任に李受眞委員を選任
- 3 教育長あいさつ
- 4 職員紹介
- 5 議事

(1) 副委員長の選出

白岩伸也副委員長の辞任に伴い、後任に山本巖委員を副委員長に選任

(2) 本市の主要事業における実績及び計画

①2022 年度生涯学習事業報告・2023 年度学習事業計画

②各区 2021 年度生涯学習事業報告・2022 年度学習事業計画

■事務局から、資料に基づき、2022 年度の活動内容等の報告、及び 2023 年度計画について説明

(晝馬委員長)

事務局からの説明について質問、意見を聞かせて頂きたい。

(飛田ひさ子委員)

どの協働センターも同じような活動をしていると思っていたが、各地域の実情に即して、取り組みが違うのに驚いた。住民のニーズをうまくとらえていると感じた。どのようにして地域のニーズを捉えているのか。

(事務局)

協働センターの職員が利用者と積極的にコミュニケーションをとる中で、ニーズを把握している。

(中村朋子委員)

各協働センターでの事業は、長年継続的に行っているものと、単発的なものがあるように思う。先進的な事業を行う協働センターがあることがわかったが、他の協働センターの事業を見学することはあるか。

(事務局)

他の協働センターの事業については、協働センター所長会議や職員の研修会等で知る機会がある。講座を見学することもある。また、協働センター運営会議での地域の方と意見交換や、地域活動団体からの聞き取りを踏まえ、事業を考えている。

(山本委員)

学校運営協議会や、コーディネーターの役割、コミュニティスクールがどういうものなのか、もう少し説明して欲しい。昨年度の最後の会議で示されたような図があると分かりやすいと思う。

(事務局)

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことで、地域が一体となった学校づくりを進めるために設置する機関である。浜松市内の小中学校の学校運営協議会が令和 6 年度には 100%になると聞いている。地域学校協働活動とは、文部科学省がコミュニティ・スクールとの一体的な推進を推奨しているもので、地域が総がかりで地域の子供達を育てる活動をしていくこと。

学校支援コーディネーターは学校運営に必要な支援をするために学校と地域をつなぐ役割をしている。図については、プロジェクターの不調で本日は映し出せない。次回の委員会で図を示したい。

(澤根緑委員)

地域学校協働活動は、地域ぐるみの子育てをするための仕組みだと思う。学校と地域をつなぐコーディネーターが重要な役割を担う。学校と地域をより良いものにするために地域のより多くの人とつながっていくこと、そして情報発信をしていく事が大切だと思う。

(事務局)

学校支援コーディネーターだけで地域と学校をつなぐ活動するのは難しいこともある。浜松市では協働センターが学校や学校支援コーディネーターをサポートできる体制をつくりたいと考えている。

学校、または学校支援コーディネーターと協働センターの職員が気軽に相談しあえるようにしていきたい。

(澤根緑委員)

協働センターの運営会議に参加させてもらった時、子供講座をやらせて欲しいという熱意ある小学校の先生がいた。その時は残念ながら講座の実現には繋がらなかったが、今後は、地域の子供は地域で育てるという意識を自治会長はじめ地域の方々を持つことで実現が可能になっていく。

(晝馬委員長)

最近では地域の子供達を地域で育てるという意識が、低いことが課題である。

(中村朋子委員)

私は、学校運営委員会のメンバーだが、学校からの要望に応じて、地域の人材が授業に参画することは進んでいる。しかし、地域の要望を学校に伝え、学校と一緒に何かをするという事に対しては、実現することに高いハードルを感じている。学校と地域がうまくつながり、地域で子供達を育てる事が出来ているケースについて話を聞きたい。

(松本孝久委員)

学校と地域をつなぐ鍵を握っているのが学校支援コーディネーターだ。赤佐小学校の場合、この学校支援コーディネーターが素晴らしく、日々コミュニティを広げてくれている。

事例を紹介すると、赤佐小のクラブ活動を地域の方が運営し活動するものに変えてくれた。地域のスポーツクラブの方やスーパーマーケットの店長など様々な方が講師となり、13のクラブを開催してくれた。九重太鼓を体験したエンジョイミュージッククラブや店員の作業や店の陳列を見学した販売チャレンジクラブ(第2回では商品のポップづくり、第3回では販売体験を予定)、防災クラブでは防災クッキングを行った。これらのコーディネートは学校職員は一切行っていない。学校支援コーディネーターが地域から全てのクラブの講師を探してきてくれた。講師はすべてボランティアだった。また、当日のクラブでは、学校支援コーディネーターが保護者にも参加をよびかけてくれ、実際に参加してくれた保護者の方もいた。このような活動が、これからの学校と地域の連携のモデルだと思う。

(事務局)

赤佐小のクラブ活動を他の学校関係職員に広報し、見学に来たか。

(松本孝久委員)

今回、広報はしなかったが、クラブ活動の評判がよかったので考えていきたい。教頭も市の研修会にて実践発表の場があり、赤佐小クラブ活動について発表している。赤佐小は毎週、何かしら地域の方が学校に入って学校支援を行っている。本日もミシンの授業の際、地域の方が3名授業の補助をしてくれていた。

(晝馬委員長)

すばらしい取り組みについて教えていただき感謝する。浜松市の生涯学習や社会教育をより一層推進していくために、今後必要になっていくことを話して頂きたい。

(村上剛委員)

昨年大学との連携事業の成果報告会に参加させて頂いた。

大学生が参加するだけでありがたいという感じが出ていた。講座を行う際に、共通の課題を設けて行うことが学生たちのプラスになるのではないかと。それぞれ課題に対してアプローチが違うことを知ることが学びになるのではないかと。事業を通して学生を育てるという観点があると良いと思う。

(事務局)

ご指摘いただいた観点に関して、今後検討していきたい。

(晝馬委員長)

大学生は地域とどのような関わりをしていくとよいか。

(李受眞委員)

学生たちは、日々専門的な知識を学んでいる。それを活用できる場の一つが地域になればいい。地域と関わる機会を設け、学んだ知識や専門性を生かし地域に貢献する機会を増やすとともに、地域の課題を解決する手助けができればと思う。

(晝馬委員長)

浜松市の生涯学習や社会教育の推進する手立てとして保護者の立場からもお話していただきたい。

(松井里華委員)

赤佐小のような活動が全市的に行えるとよい。地域の協力があれば教育の機会も広がる。様々な体験を通して、子供たちの興味・関心を深められるとよい。地域の方から学ぶ機会が、学校の授業の中にあると、多くの子供の学ぶ機会の充実につながると思う。

(晝馬委員長)

その他、何か意見がある委員はいるか。

(山本巖委員)

中学校で今後進められていく地域部活動についてお聞きしたい。

(事務局)

承知した。地域クラブ活動協議会での内容を今後、社会教育委員会等で報告する。

6 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・生涯学習推進大綱に向けた準備について
- ・浜松市と大学との連携事業【連絡資料1】
- ・指定都市社会教育委員連絡協議会【連絡資料2】
2023年7月6日(木)14:00～リモートにて出席 晝馬委員
- ・次回開催予定 第2回:10月16日(月)13:00～16:00
会 場: 麓玉協働センター
(地域学校協働活動ボランティア講座視察)

7 閉会